

令和2年度の始まりにあたり、ご挨拶申し上げます。

保護者の皆様、地域の皆様、関係諸機関の皆様には、日頃より本校の教育活動に多くのご理解・ご支援をいただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

本校は、昭和49年、横浜市で最初の肢体不自由養護学校として開校しました。肢体不自由のある子どもたちの教育がまだ保障されていない時代から手探りで始めました。

創立30周年記念誌で初代の長塚 肇校長が当時を振り返って次のように述べています。

「開校当初から、『横浜に肢体不自由教育の営みが始まる』そして『校舎の施設設備は、教育的、医療的両者の見地からも全国に先駆けた画期的なもの』との評判で、全国の特別支援教育関係者の訪問をうけ、施設設備の説明に時間を過ごす日も多い状況が続きましたが、やがて小中学部の上に高等部の開部と更には養護学校の義務教育化等の前進にともない小中高の一貫教育の充実を願い、「子どもたちに、くまなく教育の光を」のスローガンの下で教育内容の精選と充実倾情を傾けてきました。」

開校から46年がたち、市内全域から187名の児童生徒が通学する市内最大規模の学校となりました。この間、障害のある子どもたちの情勢は大きく変わりました。養護学校は特別支援学校と名前が変わり、開校当初から本校が目指した小中高一貫教育は、今では当たり前のこととなりました。障害があり、できないことをできるようにするという考え方も、自分たちのできること伸ばしていくという考え方に変わってきています。

時代は変わっても、私たちの学校に求められている、そして学校が大切にしている教育は普遍です。

それは、一人ひとりを大切に、学校という場でキラキラと輝いていくこと、そのために一人ひとりと向き合っていくことです。

この姿勢を堅持しながらも、これからは、社会の変化に対応できる資質や能力を育ていくことが求められています。

令和2年度より全面実施(小学部)となる新教育課程にともない、本校では学校教育目標、12年間で育てる子ども像、教育課程全体で育成を目指す資質・能力を見直しました。

「社会の中で自分の役割をもち、自分の役割を感じ、自分の良さを発揮しながら生きる」ことを目指し教育活動に取り組んでまいります。

そして、それぞれの役割が十分に発揮できるように、だれもが共に歩める世の中になるように、今後ともお力添えいただけますようお願い申し上げます。

校長 笹平みどり